

家保通信

Vol. 37 No. 7 11月号
東京都家畜保健衛生所

令和5年10月25日

かほクイズ

次のうち、ワクチンに含まれる病原体が死滅しているのはどっち？

- ①生ワクチン
- ②不活化ワクチン

答えは裏面

北海道の野鳥で高病原性鳥インフルエンザを確認！

10月4日に北海道美唄市で回収された死亡野鳥（ハシブトガラス1羽）から、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出されました。今シーズン1例目の野鳥での高病原性鳥インフルエンザの確認事例です。10月18日には、北海道釧路市で回収された死亡野鳥（ノスリ1羽）で、A型鳥インフルエンザが陽性となりました。高病原性かについては現在検査中です。引き続き①飼養衛生管理の徹底②毎日の健康観察と異状の早期発見・早期通報をお願いします。

都内の野生イノシシで豚熱陽性を確認！

10月、あきる野市養沢で発見された死亡野生イノシシ（幼獣）で、豚熱（CSF）の感染が確認されました。都内では11例目の事例で、8月にも檜原村で捕獲されたイノシシで豚熱の感染が確認されており、農場への侵入リスクが高い状況が続いています。引き続き、①飼養衛生管理基準の遵守



②適切なワクチン接種③異状がみられた場合の早期通報をお願いします。

九州全県で豚熱ワクチン接種が開始

8月の佐賀県での豚熱発生を受け、九州全県で豚熱のワクチン接種が開始されました。これにより、国内でワクチン接種を実施していないのは北海道のみとなりました。

接種開始日	接種県
2023年9月19日	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
2023年9月27日	熊本県、宮崎県、鹿児島県

佐賀県の発生事例では、ウイルス遺伝子解析の結果等から、中国地方西部で野生イノシシに感染している豚熱ウイルスが人、物、車両等を介して発生農場に侵入した可能性が考えられています。ウイルスの侵入防止のためには、農場に出入りする際の衣服や長靴の交換、消毒等の基本的な衛生対策や防護柵などの野生動物対策の徹底が重要です。

佐賀県の発生事例についての国の疫学調査の結果

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/attach/pdf/index-5.pdf>





ワクチンの飲水投与のコツ！

鶏では、飲水で投与するワクチンがあります。適切な投与ができないと、ワクチンの効果が正しく現れません。以下の注意点を参考に、適切な投与を行いましょ

ワクチンは要指示医薬品のため、獣医師の処方箋・指示により使用してください。
また、必ず使用説明書をよく読んでから使用してください。

①ワクチンの保管方法

・開封前のワクチンの保管方法は「冷暗所で保管」、「2℃～5℃で保管」、「遮光して2℃～10℃」など製品により異なるため、使用説明書に従い保管してください。

②投与前の断水

・鶏の喉を渇かすため、投与2～3時間前に給水を止めましょ



③ワクチンの調整

・溶解は使用直前に行いましょ

・ワクチンの溶解、投与に使用する水は脱塩素してください。

※塩素はワクチン株を死滅させるため、水道水や塩素消毒した地下水等を使用する場合、煮沸や汲み置き、チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）等で塩素を抜きます。

④投与

・ワクチン溶液は、2時間以内を目安に飲みきらせてください。

※生ワクチンは、溶解後は効果が持続しないため、速やかに投与を終えましょ
鶏の日齢や季節によって飲水量を調節してください。

・ワクチン投与開始後、鶏舎内を巡回し全ての鶏が飲んでいるか確認してください。

・一度開封したワクチンは、雑菌の混入や効力の低下の恐れがあるので、開封後は速やかに使用しましょ
使い残りのワクチンは使用せずに廃棄してください。



右表は飲水量の目安です

鶏の日齢	1000羽分
7日齢まで	5L
30日齢まで	10L～20L
30日齢以上	20L～40L

クイズの答え：②

生ワクチン：病原体を弱毒化したもの。病原体は生きているため体内で増殖するが、病気は起こさない。

不活化ワクチン：病原体の病原性と感染性をなくしたもの。病原体は死んでいるため、免疫効果を高めるための免疫賦活剤（アジュバント）が添加されている。

生ワクチンは生きた病原体を接種することで、細胞性免疫（主に白血球による免疫）と液性免疫（主に抗体による免疫）の両方を誘導します。一方、不活化ワクチンは、病原体が死滅しているため細胞性免疫の誘導が悪く、主に液性免疫を誘導します。また、不適切な接種やアジュバントの影響により、接種部位に炎症が起こることがあります。

